

第6回 関西大学食文化研究会フォーラム

主催 関西大学食文化研究会

共催 伏見酒造組合

協力 関西大学東京センター

日本酒と水のおいしい関係

～伏見、灘から江戸への物語～

日時 2025年2月8日(土) 14時00分～16時30分

開場 13:30

会場アクセス

会場 関西大学東京センター

(JR 東京駅日本橋口、サピアタワー9F)



参加費 2,000 円

(咧酒、おつまみ、資料代)

パネリスト

伏見酒造組合技術委員長、月桂冠(株)専務取締役

秦 洋二

関西大学環境都市工学部特命教授、元学長

楠見晴重

新潟大学日本酒学センター特任助教

畑 有紀

作家、元サントリー宣伝部

吉村喜彦

司会

関西大学名誉教授

黒田 勇



定員 100 名 (先着申込み順)

申込みは右の QR コードから入り、予約登録の上、参加費 2,000 円をお支払いください。
(クレジットカードまたはコンビニ支払いです)

上記方法が困難な場合のみ、下記メールでの予約を受け付けます。

お問合せ先 研究会事務局・黒田 kurodaisamu@gmail.com / 090-1024-3377

または、関西大学東京センター TEL. 03-3211-1670



パネリスト

伏見酒造組合技術委員長、月桂冠(株)専務取締役
秦 洋二



1960 年大阪生まれ、京都大学農学部卒。農学博士。日本生物工学会長、酒史学会長、日本醸造学会副会長。2013 年～2018 年 伏見醸友会代表幹事（地下水保存委員長）、2010 年 先端技術大賞 特別賞、2018 年 美しき酒と人のアワード（初代）

関西大学環境都市工学部特命教授・元学長
楠見晴重



1980 年関西大学大学院修了。工学博士。2009 年～2016 年関西大学学長。専門は地盤工学、地下水工学。京都盆地の地下水の研究は第 3 回「世界水フォーラム」で紹介。前土木学会副会長。令和 2 年度文部科学大臣表彰・科学技術賞受賞。

新潟大学日本酒学センター特任助教
畑 有紀



2015 年、名古屋大大学院満期退学。博士（文学）。名古屋大研究員、ストラスブール大客員研究員などを経て、2020 年より現職。専門は日本文学、日本文化史。2022 年、石川松太郎食文化研究奨励賞受賞。

作家、元サントリー宣伝部
吉村喜彦



1954 年大阪生まれ。京都大学教育学部卒。サントリー宣伝部で山崎、白州、響、モルツなどの CM 制作。その後、作家に。著書『江戸酒おとこ』『ピア・ボーイ』（PHP 文芸文庫）、『バー堂島』（ハルキ文庫）『炭酸ボーイ』（角川文庫）など 多数。

フォーラム開催趣旨

昨年秋、ユネスコの無形文化遺産として日本の「伝統的酒造り」が選定されました。

室町時代から酒造りを始めた京都伏見や兵庫県の灘五郷は酒どころとして知られ、関西は日本の酒文化の中心といっても過言ではありません。その酒造産業を支えたのは、関西の豊かな「水」であり、また豊かな歴史文化資源と人的資源でした。

...

そうした豊かな自然と文化、そして産業をもつ関西に焦点を当て、その豊かな「酒文化」と「水」について、様々な角度からアプローチし、その歴史と現在を語り合うことで、関西だけでなく日本の酒文化の理解をさらに深めていただきたいと思います。

...

まず、月桂冠(株)の秦洋二専務取締役が、京都伏見の酒造りの歴史とその特徴をお話します。次に、楠見晴重教授が地盤工学の視点から、京都は「水盆」の上に浮いた都市であり、その水が「伏見の酒」を支えたことを解説します。さらに、日本酒の文化史研究者である新潟大学の畑有紀助教が、江戸時代の酒文化について解説します。そして、時代小説『江戸酒おとこ 小次郎酒造録』を出版した吉村喜彦氏が、上方の酒が江戸に下ったかつての「物語(ロマン)」を語ります。

...

それぞれの専門的知見だけでなく、広く一般の方々にも「酒と水」、そして京都の魅力についての理解を深めていただくための話題を提供できればと思います。

月桂冠(株)提供による「酎酒」もお楽しみに。

関西大学食文化研究会について

人類の食文化について、会員の専門分野から多様なアプローチで議論する研究会として活動しています。2006 年、関西大学の教職員の有志で学部を越えた緩やかな親睦会として発足しました。会員の大半が退職した 2022 年度より現名称とし、これまでの研究で得た知見を持ち寄り、それを社会に還元すべく、定期的にセミナーやシンポジウムを開催しています。何よりも会員たちが楽しいと思うことを周囲の人たちと共にしたいという思いからの活動です。

（会長・楠見晴重）